



Suntory Hall Christmas Concert 2023

Listen to the Sound
of Christmas



2023.12.25 Mon 19:00
サントリーホール 大ホール
Suntory Hall, Main Hall

主催:サントリーホール 協力:オークラ東京

Program

アンダーソン

Leroy Anderson

『クリスマス・フェスティバル』

A Christmas Festival

メンデルスゾーン

Felix Mendelssohn

付随音楽『真夏の夜の夢』序曲

A Midsummer Night's Dream Overture

チャイコフスキー

Pyotr Ilyich Tchaikovsky

バレエ組曲『くるみ割り人形』作品71a

The Nutcracker Suite, Op.71a

- I. Miniature Overture (小序曲)
- II. March (行進曲)
- III. Dance of the Sugar Plum Fairy (金平糖の精の踊り)
- IV. Russian Dance, "Trepak" (ロシアの踊り「トレパーク」)
- V. Arabian Dance (アラビアの踊り)
- VI. Chinese Dance (中国の踊り)
- VII. Dance of the Mirlitons (箏笛の踊り)
- VIII. Waltz of the Flowers (花のワルツ)

—— 休 憩 ——

intermission

ラヴェル

Maurice Ravel

組曲『マ・メール・ロフ』

Ma mère l'oye Suite

- I. Pavane de la belle au bois dormant (眠りの森の美女のパヴァーヌ)
- II. Petit poucet (親指小僧)
- III. Laideronnette, impératrice des pagodes (パゴダの女王レドゥロネット)
- IV. Les entretiens de la belle et de la bête (美女と野獣の対話)
- V. Le jardin féérique (妖精の園)

ストラヴィンスキー

Igor Stravinsky

バレエ組曲『火の鳥』(1919年版) より

from *The Firebird Suite* (1919 version)

"Ring Dance of the Princesses" (王女たちのロンド)

"Infernal Dance of King Kastchei" (魔王カスチェイの凶悪な踊り)

"Lullaby" (子守歌)

"Finale" (終曲)

指揮: 大友直人

Naoto Otomo, Conductor

ナビゲーター: 森川智之

Toshiguki Morikawa, Navigator

新日本フィルハーモニー交響楽団

New Japan Philharmonic

★本日演奏される曲について、さらに知りたい方はこちらから! >>>
曲目解説を掲載しています。



Profile



©Rowland Kirishima

[指揮]
Conductor

大友直人
Naoto Otomo

大友直人は桐朋学園在学中に22歳でNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本の音楽界をリードし続けている我が国を代表する指揮者のひとりである。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京交響楽団常任指揮者、京都市響常任指揮者、群響音楽監督、琉球響(沖縄)音楽監督を歴任している。1958年東京生まれ。桐朋学園で小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘らに学ぶ。

NHK交響楽団指揮研究員時代にはW. サヴァリッシュ、G. ヴァント、F. ライトナー、H. ブロムシュテット、H. シュタインらに学び、タングルウッドミュージックセンターではL. パーンスタイン、A. プレヴィン、I. マルケヴィチからも指導を受けた。



[ナビゲーター]
Navigator

森川智之
Toshiyuki Morikawa

神奈川県出身。声優・ナレーターとして数多くの作品に携わる。ハリウッド映画ではトム・クルーズ(『ミッション:インポッシブル』シリーズ、イーサン・ハント役ほか)、ユアン・マクレガー(『スター・ウォーズ』シリーズ、オビ=ワン・ケノービ役ほか)、キアヌ・リーブス(『ジョン・ウィック』シリーズ、ジョン・ウィック役ほか)などの日本語吹き替えを担当。アニメーションでは、『ズートピア』ニック・ワイルド役、『クレヨンしんちゃん』野原ひろし役、『鬼滅の刃』産屋敷耀哉役、『NARUTO—ナルト—疾風伝』波風ミナト役などのほか、数多くの作品に出演。また岩波書店より『声優 声の職人』を出版。株式会社アクセルワン代表取締役。

公式X: <https://twitter.com/moriax291>

公式ブログ: <https://ameblo.jp/toshiyukimorikawa>



©K.Miura

新日本フィル ハーモニー 交響楽団

New Japan Philharmonic

公式ウェブサイト: www.njp.or.jp
公式X: [@newjapanphil](https://twitter.com/newjapanphil)
公式Facebook: [/newjapanphil](https://www.facebook.com/newjapanphil)
公式Instagram: [/newjapanphil](https://www.instagram.com/newjapanphil)

「一緒に音楽をやろう!」1972年、小澤征爾、山本直純のもと、自主運営のオーケストラとして創立。97年、すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日常の練習と公演を行う日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会、特別演奏会、楽員プロデュース「室内楽シリーズ」のほか、地元の学校体育館や小中学校の音楽授業、各種施設の訪問など、地域に根ざした演奏活動も精力的に行う。

99年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任、歴代の指揮者には、初代音楽監督・小泉和裕(75~79)、第2代音楽監督・井上道義(83~88)、第3代音楽監督・クリスティアン・アルミンク(2003~13)、第4代音楽監督・上岡敏之(16~21)。その他、ダニエル・ハーディングがMusic Partner of NJP(10~16)、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residence(13~15)を務めた。新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラの音楽監督に久石譲(04~)、また新日本フィルのMusic Partner(20~)も務めている。受賞歴に第3回三菱信託音楽奨励賞、第18回三菱UFJ信託音楽賞、第22回ミュージック・ペンクラブ音楽賞など多数。23年4月より佐渡裕が第5代音楽監督に就任。街・ホール・オーケストラが一体となった音楽活動を行う。

サントリーホールの クリスマスに寄せて

市川紗椰(モデル・タレント)

このプログラムを手にとっているってことは、あなたは先程、サントリーホールのエントランスをくぐってきたということでしょう。レセプションistのお出迎えでホワイエに足を踏み入れた瞬間、包み込んでくれる煌びやかな光。ホリデー仕様の装飾や天井の大きなシャンデリアに目を奪われたのか、開演前のドリンクコーナーに誘惑されたのか、はたまたコートを脱げた身軽さに一息ついているのか、とにかく非日常な世界に浸っていることを願っています。

ここに来る時に通ってきた街も、年末特有のソワソワが漂っていませんでしたか? ワクワク感と慌ただしさが入り混じる浮き足立ってる東京を見ると、私は友達との冬休みの約束が楽しみでしかなかったことや、寒い地域に住むおぼあちゃんの家のはのかな灯油の匂い、そして最後まで残った大仕事やがやっと片付いた安堵混じりの充実感なんかを思い出します。

季節と記憶とが密接であるように、音と記憶も直結していると思います。ふと曲を耳にして、一瞬にして思い出が蘇る体験。まるで記憶の扉がパッと開き、嬉しい記憶も苦い記憶も当時と同じ感情で押し寄せてくるあの感覚。視覚的なものより聴覚的な記憶の方が、ダイレクトに感情に結びついていると私は信じています。明確なエピソードがなくても、漠然とした「あの頃」を装飾してくれる音楽は、まるでタイムマシーンのよう。一度しかない人生を、当時のような感情をおかわりさせてくれる音楽。こういった鍵となる音楽が多ければ多いほど、豊かな日々になる気がします。



今夜ここで聞く音楽も、未来の自分にとっての鍵になるかもしれません。この季節の出会いは特に心に刻まれる力が大きいので、私は今夜特に気になった作品をしばらく集中的に聴こうと思っています。未来の自分へのご褒美として、いつかまたここに来れる思い出の鍵を作る気分で。

ちなみに今夜のプログラムにはまさに私にとっての鍵のような作品があります。アメリカで育った私は、いわゆる「クリスマスらしい」経験をしてきました。12月になると郊外に出現するツリー農場で生の木を斧で切り落とし、24日に家族で飾りつけ。天辺に飾る星は兄と私で一年おきに交代で担当。25日の朝には無駄に早起きをし、プレゼント大会の前に犬と雪遊び、なんて嘘のようなベタな過ごし方でしたね。学校では毎年、恒例のホリデーコンサートがありました。今夜の一曲目、アンダーソンの『クリスマス・フェスティバル』は吹奏楽部の定番曲。私が所属していたオーケストラはユダヤ教の祭事・ハヌカの曲を担当していたけど、人数が足りない年はベルを鳴らしに吹奏楽部へ数名派遣されました。出番はあまりないので演奏そのものよりアウェーな部活にお邪魔する緊張の方が強かったけど、このアレンジを聞くと演奏後の一体感を思い出します。今思えば、互いを助け合って小さな喜びを分け合うアメリカ流「クリスマス・スピリット」を体現できた曲かもしれません。

メンデルスゾーンの付随音楽『真夏の夜の夢』も、シェイクスピアの戯曲に合わせて中学校で触れた記憶があります。堅苦しそうなおイメージに反して、イタズラ好きな妖精たちが若者に惚れ薬の魔法を使って大騒ぎを繰り広げるトホホな内容の物語。今の季節に聞くと、森に息づく妖精たちがサンタのお手伝いをする小人の妖精たちにも思えて、また趣が違いますね。管楽器の「何か起こるぞ」的な妙なる和音と妖精たちの舞いのような弦楽器に耳を傾けながら、今年起こった予定外の出来事や、思い通りにいかなかったことを

振り返っても良いかも。すべては妖精たちの遊びだと思って、今日の演奏に昇華してもらいましょう。

「おとぎ話」で繋がる今回のプログラム。クリスマスの夜に起こった不思議な出来事を描いたチャイコフスキー：バレエ組曲『くるみ割り人形』も、アメリカではホリデーシーズンになるとあちこちで耳にする定番曲（日本で言うと、「第九」に近い存在かもしれません）。地域や各劇場の文化行事で毎年上演され、バレエを習っている子供は教室ごと参加したりします。「金平糖の精の踊り」で、当時発明されたばかりの楽器チェレスタを初めて大々的に使用したことも有名なこの作品。今の最先端が未来の定番になるワクワクも感じながら聴きたいです。

全体のラストを彩るのはストラヴィンスキー：『火の鳥』の終曲。魔法から解放されたような晴れやかな輝きの大団円で終わりますが、これでお別れとは限りません。今から体感する幸福サウンドにじっくり浸れば、この時間が幸せの思い出の鍵になるはず。自分だけのおとぎ話のように。。。



Saya Ichikawa

1987年生まれ。4歳から14歳までアメリカ・デトロイトで育つ。ファッションモデルとしてデビューし、ラジオやテレビなどでも活躍中。「鉄道」「相撲」など好きな物にかける情熱が強いことから「マニア」としてメディアに登場することも多い。現在レギュラー出演番組にJ-WAVE「ORIENT STAR TIME AND TIDE」、NHK-FM「×(かける)クラシック」がある。



もっと知りたいサントリーホール



カラヤン氏と佐治敬三

♪「世界一美しい響き」をめざして

東京初のコンサート専用ホールである、サントリーホールの大ホール。「世界一美しい響き」をコンセプトに1986年秋に誕生しました。当時サントリー株式会社の社長であった佐治敬三が、世界的指揮者のヘルベルト・フォン・カラヤン氏に直接面会してアドバイスを求め、客席が360度、ホールを取り囲むヴィンヤード(ぶどう畑)形式を採用することになりました。全2,006席がぶどうの段々畑状にステージを向いているため、音楽の響きは太陽の光のようにすべての席に降り注ぎます。ピアノシモの、どんなわずかな音さえも観客席の隅々にまで届かせる、こだわり抜かれた響きを実際に体験したカラヤン氏は、「響きの良さに感動した。まるで音の宝宝箱だ」と語っています。

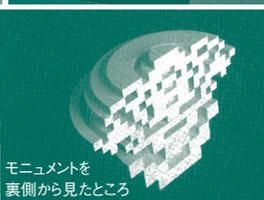
♪胸ときめく、特別なひとときを

こうして誕生したサントリーホールの中には、お客様をおもてなしするための、様々な工夫が施されています。ぜひご注目ください。

◎大ホール内

「サントリー」らしく、お酒にまつわる素材やモチーフが多数あしらわれています。大ホールの壁の材質はホワイトオークで、ウイスキーの貯蔵樽に使われる木材です。客席の布地の図柄は、1930年代のウィーンで流行したもので、ぶどうの房をデザインしたものです。また、舞台上のシャンデリアはグラスから立ち上がるシャンパンやビールの泡をイメージしており、泡の一つ一つはぶどうの葉をモチーフとしています。

◎ロビー(ホワイエ)



モニュメントを裏側から見たところ



1.シャンデリア

ひときわ輝きを放つのが、ロビー天井のシャンデリア。オーストリア製クリスタル6,630個が、蒸溜されたアルコールの一滴一滴を表しています。作者は照明デザイナーの石井幹子さんと、東京タワーやインボブリッジ、東京駅のライトアップを手掛けたことで知られています。

2.壁画

エントランス正面上の壁には、「響」をテーマにしたモザイク壁画があります。日本を代表する抽象画の巨匠、故 宇治山哲平画伯の作品で、世界7か国8種類の石を使用しています。

3.ステンドグラス

壁画の両端には、三浦啓子さんによるステンドグラスが柔らかな光を呼び込んでいます。「律」という作品です。2階廊下にも三浦さんのステンドグラスはめこまれており、記念写真をお撮りいただくスポットの一つとしてもオススメです。

4.モニュメント「響」

エントランスの外側にある、金色に輝く大きなモニュメントは五十嵐威暢さんの作品。なんと、「響」という漢字からできており、これを裏側から見ると、サントリーホールのロゴマークと同じ形をしています。

Cafe&Bar インテルメッツオのクリスマス



開演前、休憩時間にオープンしています。

インテルメッツオとはイタリア語で「間奏曲」を意味します。コンサートの幕間にお酒やソフトドリンクを飲みながら会話を楽しみ、豊かな時間を過ごしていただきたい、という思いから名づけられました。

Christmas
Special wine
クリスマス
スペシャルワイン

ヴィツラ サンディ プロセッコ ロゼ
グラス1,000円(税込)

〈プロセッコ〉は北イタリア・ヴェネト州で作られる軽やかなスパークリングワイン。フルーティな香りと飲みやすさで世界中で親しまれています。クリスマスの乾杯に是非どうぞ。

本公演の有料オンライン配信は、公演終了後にもご視聴いただけます。

【視聴期間】

2023.12月26日(火)19:00~12月31日(日)23:00

【視聴券】2,000円

※取り扱い:デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットびあ)、イープラス[Streaming+]

視聴券のご購入はこちらから
デジタルサントリーホール 配信公演
ページの「WATCH」ボタンより視聴
券購入画面にお進みいただけます。





出会う。育む。分かちあう。 サントリーの文化活動

1986年、「世界一美しい響き」をコンセプトに誕生したサントリーホール。
国内外から高い評価をいただいていた響きを大切に継承しながら、
すべての人が快適に過ごせるようユニバーサルデザインを推進するなど、
より多くの方々に音楽を楽しんでいただける場となることを目指してきました。
芸術と人との出会いの場をつくり、ともに文化を育み、感動を分かち合いたい。
創業当初から変わらない思いがあるからこそ、時代に合わせて進化していく。
サントリーの文化活動は、これからも新たな挑戦を続けていきます。



SUNTORY HALL

Merry Christmas and best wishes
for a happy new year.

from Suntory Hall

